

社 報



代表取締役 2名体制

今度は成功

1月に日本建築総合試験所で失敗し、その後、国元商会展にて行った試験で、試験体の不具合が見つかった、角バタ支柱ですが、先日、国元商会展にて、再度試験を実施しました。結果は104.5kN(10.5トン)まで耐えることができました。



これまで、代表取締役社長として森本隆之が経営全般を采配し、常務取締役として竹島康文が、型枠工事全般を采配しておりました。型枠工事の売り上げは、昨年の決算ベースで70%を超えており、当社の主業として屋台骨を支える部門となっています。

その型枠工事を全面的に采配している役職者が代表取締役でないことは、ある意味不自然であると思っておりました。

今後、型枠工事部門を発展させていくためにも、その責任者である者が、代表取締役の肩書を持つことは重要であると考えます。

本年4月30日付けにて、竹島康文常務取締役は、代表取締役社長に就任いたしました。

それに伴い、従来、代表取締役社長でありました森本隆之は、代表取締役会長に就任しました。

代表取締役が2名となりましたが、役割分担としては以前と変わらず、森本隆之新会長は経営全般、竹島康文新社長が型枠工事全般

を采配することになります。

型枠工事部門は、リーマンショック後の不況による急激な単価下落により、職人さんの離職、若者の入職者減少など、様々な苦難を経験してきました。

ここ数年は徐々に型枠価格も回復傾向にあり、一息ついたところではありますが、今後の事業展開については難しい課題を抱えています。

その一番として、若年技能工の育成が挙げられます。当社は、従来から技能工の育成には力を注いできましたが、リーマンショック後の業績悪化により、高卒者の求人も停止し、若年技能工が非常に少なくなり、年齢構成が「いびつ」になっています。

企業は社会の公器であり、その存続は必然であります。当社がこれまで培ってきた技能・技術を次の世代につなげねばなりません。

職人さんの高齢化などを考えれば、早急に対処しなければならない問題です。明日の繁栄は、現在の努力があつてこそ成立します。

皆の力合わせて頑張りましょう。

当社ホームページは <http://www.forbuild.co.jp> ご覧になれます。

梅雨の前に電動工具の点検を

6月には、梅雨の季節を迎えます。雨が多く、じめじめした気候は仕事ににくい嫌な季節です。雨と言えば、水、水と言えば、漏電・感電と、電気災害が連想されます。梅雨の前には、電動工具、リード線を点検して安全を確認してください。

今月も災害がありませんように……(拝)

電気工具点検 5月1日～7月31日



2015年 安全成績

■現場災害 H27.1.1-H276.1	
休業災害	----- 0
不欠災害	----- 0
物損災害	----- 0
その他	----- 0
合 計	----- 0
■交通災害 H27.1.1-H27.6.1	
人身災害	----- 0
物損災害	----- 0
合 計	----- 0